

川柳マガジンクラブ東京句会 7月  
平成21年7月12日(日) 駒込学園にて

参加28名 出席23名、投句6名

伊藤三十六、山口千枝子、水野絵扇、高田以呂波、  
加藤品子、藤原栄子、関 玉枝、秋山和子、  
菊地順風、小倉利江、村田倫也、河野桃葉、左道  
正、星野睦悟朗、五十嵐淳隆、白勢朔太郎、横山き  
のこ、棚瀬くんじ、ヨモギ、土江裕美、甲野竜  
雄、  
松橋帆波。

欠席投句

丸山芳夫、正木三路、石田きみ、山田こしい、  
星出冬馬、植竹団扇。

※ 横山きのこさん、星出冬馬さんより、

## 自由吟 句評会

七転び八起き一回多く起き 正

一回多く起きるといふ勢いがいいなと思います。ヨモ

ギ

作者 七回転んだら七回しか起きないのに、八起きと  
言うのが不思議だなという句です。

ゴーヤ見てウルトラマンが飛んでくる 芳夫

他の人に、ゴーヤのブチブチが怪獣に似ていると聞いたが、どうも納得が出来ない。ゴーヤとウルトラマンのつながりが解らない。利江

ゴーヤとウルトラマンが結びつかない。玉枝

ウルトラマンがゴーヤを食べてパワーをつけているのだろう。順風

意味が解らなかった。ポパイのほうれん草のようなイメージだろうか。品子

何だろうかと解らなかつた。裕美

作者 ゴーヤのぶちぶちが怪獣の背や尻尾に見えてウルトラマンが思い浮かびました。ゴーヤという沖繩とか夏の味とかありきたりのものばかり。こんな句はいかがですか。

花を盗る心 貧しい人の陰 三路

陰という文字が、影法師か、陰陽の陰のどちらの意味なのか聞いてみたい。三十六  
逃げて行く人の影と感じたが、陰なので、道句のような感じ。倫也

陰を背なとすればどうか。利江

作者 昔作った句で、その時は貧しきでした。

み仏に一步近づくと寺めぐり 栄子

寺を巡って歩く時の気持ちがよく分かる。玉枝  
み仏に一步近づくとという表現で、綺麗な心になれる印象を持ちました。和子

段々年を取ると墓に近づくといふか準備をするといふか先祖の墓参りをする。そういうものを素直に詠んだ句。竜雄

そんなに、御仏に近づけるのだろうかと思う。 倫也

作者 友達と御府内八十八箇所を巡っているうちに感じた事柄です。

た事柄です。

幸せな錯覚だった一目惚れ 団扇

一方通行だが明るい句。正

一目惚れした幸せな思いを感じました。栄子

錯覚という表現が良い。上手に表現してある。利江  
本来なら覚めて後悔するのだが、幸せというところに、一時の熱を懐かしんでいるように思える。倫也

難解句が多い中一読明解。錯覚は錯覚だがよかつたという明るい気持ち。淳隆

錯覚という言葉を使ったところで明るい句にしている。順

る。順

風

今現在尻に敷かれていても幸せなんだなと感じさせる。裕

美

る。裕

恋人は恋人らしい演技する 千枝子

ほのぼのとした感じ。 順風

他人のカップルを観察した句では 倫也

第三者がいる場面での恋人の感じ。二人だけの時とは違う。帆波

違う。帆波

作者 人生劇場。父親は父親らしい、母親は母親らしい、人にはそれぞれの役がある。

い、人にはそれぞれの役がある。

乾杯のビールぬる爛出来上がり 以呂波

早く乾杯すればいいのと思う状況を思い出して、い

いと思いました。玉枝

作者 乾杯の挨拶は短いほうがいいという句です。

午前零時赤頭巾ちゃん気をつけて 順風

意味が解らないけれど面白い。正

仕立てがいい。こういう作り方はなかなか出来ない。

利江

作者 女性の遅い時間の一人歩きは危険だということ

からの発想。午前零時はシンデレラを想定したので

はなく、危険という事を膨らませた。作者

純喫茶思ひ出 苦きルノアール こしい

ルノアールで苦い思い出があったのだろうか。裕美

何が苦かったのか想像するしかないが、喫茶店のルノ

アールと絵画のルノアール、喫茶と絵画の関係が「苦

い」というのはどういう意味なのだろう。朔太郎

昔のことを思い出して、若い頃にいい思い出がなかつ

たなど、最近の喫茶店に入って絵を見て感じた句で

は。

桃葉

作者 前回の吟行の折にバスの車窓からルノアールが見

えた時、高校時代を思い出して詠んだ作品。当時の

純喫茶は入店するのに年齢制限があったと記憶して

いる。初めてルノアールに入ったときは胸がドキドキした。初めて飲んだ珈琲が濃くて苦かったことが今でも脳裏にある。それと青春時代のもろもろの苦い思い出を重ねて詠みました。

ぐうたらなクラゲのようになる暑さ 和子

相当な暑さだという事が判る。順風

ぐうたらなくらげという表現がいい。帆波

クラゲは自分の手と足が纏れないのかなと思いつながら鑑賞しました。睦悟朗

暑さの表現にくらげを持ってきたのが面白い。ぐうたらなクラゲという表現が女性がぐにやぐにやになるCMとダブって面白い。千枝子

作者 水槽の中のクラゲを見て、何を考えているのだろう、そしてあのクラゲみたいは何もしたくないのだけれど、という思いを詠みました。

足うらを砂利が擦る海開き くんじ

海開きして素足で歩く砂浜、砂が擦るといふ感触に心地良い風を感じた。きのこ

海開きの時はまだそんなに砂が暑くない。その砂浜が足裏を擦るといふ表現がいい。朔太郎

作者 わたしの子供の頃の海開きといえば、砂浜に並んで神主の祝詞を聞くという思い出がある。気を付けて聞いていると波が足元を洗っていく。そのときの触感をイメージしました。

意地張らずあつさり負けて楽になる ヨモギ

負けるが勝ちという意味で取りました。栄子

兄弟でも夫婦でも、喧嘩の時は負けたほうが楽になるかなと思うときがある。例えばボクシングの試合でも負けたほうが楽と思うことがあるかも、そういう意味で取りました。絵扇

作者 夫婦喧嘩の場合もあるが、少し肩の力を抜いたら人生も楽になるのではなど、いろいろな意味を込めました。

素敵ねと洋服だけを褒められる 三十六

よく判ります。品子

気持ちがよく判る。倫也

どこかで見た印象が強い。竜雄

既視感強いが、直接表現されていない事柄を読み取らせるという、という作句の参考にした。帆波

誉めたくても誉められない時に洋服でも、という感じ。可愛くない子供に、元気ねと言うのと似ている。

千枝子

作者 類想句が多く、洋服も動くが、あえて言外の表現

について問いたかった。

畠ごと野菜ジュースが買いにくる 淳隆

「が」が生きている。三十六

食の安全が問われている時代。「野菜ジュースが」という表現が生きている。以呂波

ジュース用の畑を思い浮かべ「ジュースが」という表現が効いていると思った。睦悟朗

沖繩に長寿草というものがあり、栄養価が高いらしい。それを連想した。「ジュースが」という表現は判りにくい。千絵子

主語が判りにくいのは。正

大体分かるのだが「野菜ジュースが」というところが気になる。玉枝

「野菜ジュース」が主体になってくる。ジュースのために畑ごと買いに来るといふ意味と、しつくりこない。くんじ

くんじ

作者 「ジュース会社が買いに来る」では面白くない。そこで「野菜ジュース」としました。

重ね着を一枚脱いで初夏の天 朔太郎

いい川柳です。重ね着を脱いだのは空。天という表現はスケールを感じる。三十六

作者 ご評価いただいたとおりの作品です。

政治家の舌は抜いても生えてくる 帆波

理屈抜きで可笑しい。正

時事吟として素敵な句だと思いました。竜雄  
現代の政治化を風刺している。時事漫画として面白い。

作者 二枚舌、何枚もの舌という同想が多いので、生えてくるという表現を試してみました。舌を抜くのは地獄。それでもまた蘇ってくる、というところまで含んでみました。

今日からはジョッキでビール更衣 睦悟朗

作者 衣替えの句を考えていたのですが、前回と同じくお酒の句になってしまいました。

選挙カー現金なのかご声援 きのこ

意味が判らなかつた。睦悟朗

意味が判らなかつた。以呂波

現金を貰った議員のことを言っているのか、「現金」と「現金な奴」が掛かっているのだろうか。絵扇

「現金な奴だ」と読むと意味が判るが、ご声援という表現は誤読を呼ぶのでは。帆波

「現金」の部分が誰に疑問を投げかけているのか判らなかつた。倫也

作者 「現金と誤ってしまいうごせイエン」だった。選挙カーの「ご声援」が「五千元」に聞こえたのでそのことを表現したかった。

天才の続出梅雨を忘れさせ 利江

天才の続出という言葉の具体性がないと判り難い。淳隆

作者 ピアニストの辻井さん、ゴルフの石川選手らを見て、世の中捨てたものではないと思いました。

幸せは見えないけれど天の川 裕美

七夕を詠んでいるのでは。竜雄

現実の作者自身か。夢を持つ心のゆとりがある。く

んじ

目に見えないものをイメージさせてくれる。天の川という言葉がロマンチックですね。ヨモギ

天の川も幸せも見えないけれど、夜空を仰いでいると昔のことや、郷愁、生き様など、いろいろと考えさせてくれる。静かで気持ちのよい句です。和子

作者 幸せは見えない、という言葉が印象に残っていて、現実はいまい先の事を見てもしょうが、幸せは見えないものだから、近くにあるかもしれないと思った。七夕の行事が近くであったので、天の川という表現を使った。

握手した笑顔ピリオドかも知れぬ 桃葉

婚活の場面を想像した。告白の後の「ごめんさい」が思い浮かぶ。淳隆

いろいろな場面、ドラマが想像できる作品。病氣見舞いもそう。今日最高の作品。三十六

自分に置き換えて読みました。この句のような場面を思い出した。きのこ

そういえば、あの時の笑顔が最後だった。そんな場面と捉えて取りました。品子

ピリオドという言葉を上手に使ったと思う。朔太郎病気の場面などを思い浮かべ、そういえばこの句のような事を思ったことがあるなど、強く印象に残った句。

睦悟朗

断定していないところが良い。帆波

作者 皆さんのご評価ありがとうございます。

すぐ折れる花折れぬ花雨が降る 冬馬

一つの心象風景としていい。くんじ

二つの文章を衝突させている手法が、よく見る川柳の文

体と違っている。そこを評価したい。帆波

私の句に似ているようで良いと思いました。桃葉

色々な事のある人生、良い時も逆境の時も。雨が降るといふ表現から広がって行く。利江

作り方、仕立て方が新鮮な句だと思います。品子

花の情景としても良いが、どんな状況にいる人にも、等しく雨が降る、という風景。裕美

丹精のユリヘカメラが監視中 玉枝

前の句と逆に現実的。綺麗だなと見ていたら、カメラに見られている現実を引き戻される。くんじ

「ユリヘカメラ」は「百合ヘカメラ」がいいのでは。淳隆

作者 店先で綺麗なユリを愛でていたら、監視中という看板が目に入った。きれいだなという思いが、半減してしまいました。

哲学の道にお金が落ちている 倫也

面白いです。きのこ

哲学の道と、お金の取り合わせが面白い。以呂波

哲学というと、痩せたソクラテスのイメージ。お金と

結びつくのかしら。利江

文学の小路なら小説としてお金になるかもしれないが。淳隆

作者 哲学者がお金をどのように認識しているのか。「それにつけても金の欲しさよ」的なことがあるのかどうか。自分も含めて考えてみたかった。

給付金下りて論客トーン落ち 品子  
騒いでいたほどではなかったという意味で共感しました。栄子

作者 酒場の話題を想定。実際に下りてみると大したことがなかった。

なぜ言えぬ君の背後の黒い森 竜雄

「君」が誰を指しているのかが判らなかつた。帆波

作者 汚職事件などが起こると、下の者が自殺して事件の本丸に届かない事がある。その事件の解明を止めた「君」ということです。

ガラガラをきつと左で握る孫 絵扇

よく判らなかつた。ガラガラは抽選で使うもののことでしょうか。和子

作者 赤ん坊が持つガラガラです。娘は左だったのだが、孫は右で持った。それだけのことです。弓手という言葉もあるのだが、一般的ではないと思ったので使いませんでした。

忘れたい事へ時間という薬 きみ

時間という薬が良いです。和子

時間という薬という表現が良い。裕美

時間という薬という表現が大変良い。竜雄

すべては時間が解決するという事を言い換えたといえればそれまでだが、解り難い作品の中でほっとさせられるものがあつた。淳隆

悪いことは時が解決してくれるというが、そういうことも含んでいるのでは。以呂波

同じです。二重丸です。絵扇

人間は生きていくためには、良い事も悪い事も忘れていかなければという事があつて、時間という薬という表現が良い。桃葉

同じです。玉枝

課題吟 前句附

「賑やかなこと 賑やかなこと」

五十嵐淳隆選

「佳作」

あれこれと東国原今日もでる くんじ  
当確がわかつてるから祝酒 千枝子  
華やかに二十三忌の裕次郎 竜雄

芥川賞が決まった自宅前 三路  
美少女の顔いっばいの目鼻立ち 団扇  
マンガーを売るだけじゃない知事の口 帆波  
飯よこせ酒もよこせと腹の虫 三十六  
おもちゃ箱敵も味方も雑魚寝する 帆波  
ブランドの破格に急ぐ鷲掴み 玉枝  
合コンの中国人らよく喋り 順風  
「秀」

政界の蜂を飼ってる週刊誌 朔太郎  
大都会スクランブルの急ぎ足 栄子  
年金の首が揃った縄のれん 朔太郎  
「特選」

風評を煽りメディアの打つ太鼓 利江

### 課題吟 前句附

「賑やかなこと 賑やかなこと」

### 松橋帆波選

「佳作」

ちやんこ鍋英気養う具沢山 裕美  
遠足の声で揺れてる満員車 利江  
赤ちゃんの予防接種は泣き移り 順風  
ブランドの破格に急ぐ鷲掴み 玉枝  
サクラだと知らず人垣覗き見る 倫也  
政界の蜂を飼ってる週刊誌 朔太郎  
大都会スクランブルの急ぎ足 栄子  
飴一つ覆った蟻の長い列 睦悟朗  
ストラップケータイよりも重量化 きのこ  
スタンドのラッパに消える打球音 睦悟朗  
「秀」

歳などは忘れ後期のフラダンス 利江  
凝りもせず虎を励ます鉦太鼓 淳隆  
大家族喧嘩する子に叱る親 栄子  
「特選」

風評を煽りメディアの打つ太鼓 利江

披講前に五十嵐淳隆氏より、今回の選句の基準の解説がございました。

まず「賑やかで当たり前のこと」と

「付け句だけで独立していない句」

は、選出に至らなかったことを、例句を交えてご説明いただきました。

例えば、孫が帰省している、子沢山、同期会、村祭りなどは、賑やかなのが当たり前であるという理由です。

帆波選では、句の独立性の観点から、

前句「賑やかなこと 賑やかなこと」がなくても通用する事。前句の内容を説明するのではなく、広がるような作品を選出する事を心掛けました。

特選の作品は両選者共、同じ作品を選びました、

これは、作品の独立性、伝達性が高く、前句がなくとも通用する事、またある特定の出来事に収斂することなく、完結性においても句の広がり損なっていない点が評価に繋がりました。

続いて、課題吟で特選に選ばれた小倉利江さんに、五分間吟の出題と選考をお願いいたしました。結果は次の通りです。

### 五分間吟「意地悪」

### 小倉利江選

「佳作」

意地悪な所に惚れる腐れ縁 品子  
意地悪と言われ残ったつねり跡 順風  
振り向いてほしく意地悪言ってみる 以呂波  
朝起きの悪い亭主の布団剥ぎ 栄子  
目の前のぐい呑み仕舞う妻の意地 淳隆  
どう見ても彼がブレイキ役らしい 倫也  
意地悪な婆さんだけがなる卒寿 三十六  
ニューファッション嫁がじろりと薄笑い 千枝子  
好きだから貴方を悪く言ってみる 帆波  
酒ねだる夫へ水も少し入れ 玉枝  
「秀句」  
貴男の意地悪髪まで白くさせ 絵扇  
意地悪な雨が避けてるダムの上 三十六  
テポドンが意地悪ばかりして困る 三十六  
「特選」  
意地悪な天使の矢から逃げられず 帆波

以上

まとめ 松橋帆波